

環境問題の解決に資する 和歌山県の様々な取組

和歌山県知事
仁坂 吉伸

和歌山県のイメージ

海



山



みかん



徳川
御三家



どれも正解ですが、ほかにも素晴らしい地域資源がたくさんあります

和歌山県の地域資源

自然



歴史・文化

レジャー



産品

和歌山県では、
素晴らしい地域資源を大切に守りながら、
ブラッシュアップを重ねて活用。

また、新しいノウハウ・資金・担い手を確保する観点から、
都市との連携も不可欠。

デジタル技術を取り入れながら、
こうした保全・活用や連携を充実し、
環境問題の解決に資する取組を展開している。

和歌山県の環境対策

気候変動対策

○森林吸収源対策

森林の適切な管理・保全（紀の国森づくり基金）
「企業の森」を活用した企業の社会貢献活動支援

○地域の環境と調和した再生可能エネルギーの導入促進

バイオマスや小水力の利用促進
太陽光・風力発電 → 一方向ではなく総合的に

温室効果ガス排出量の削減目標：**2050年度までに排出量実質ゼロ**

循環型社会の構築

○3Rの推進

マイバッグなど繰り返し使える製品の利用促進
廃棄物の減量化やリサイクルに役立つ製品を認定し優先的に購入

○海洋ごみ・プラスチック対策

わかやまごみゼロ活動の応援、ごみの散乱防止

リニアエコノミー（線形経済）から、**サーキュラーエコノミー（循環経済）**へ

環境問題の解決に資する和歌山県の様々な取組

■ 循環産業の好例

世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」

■ 東京一極集中の弊害を緩和

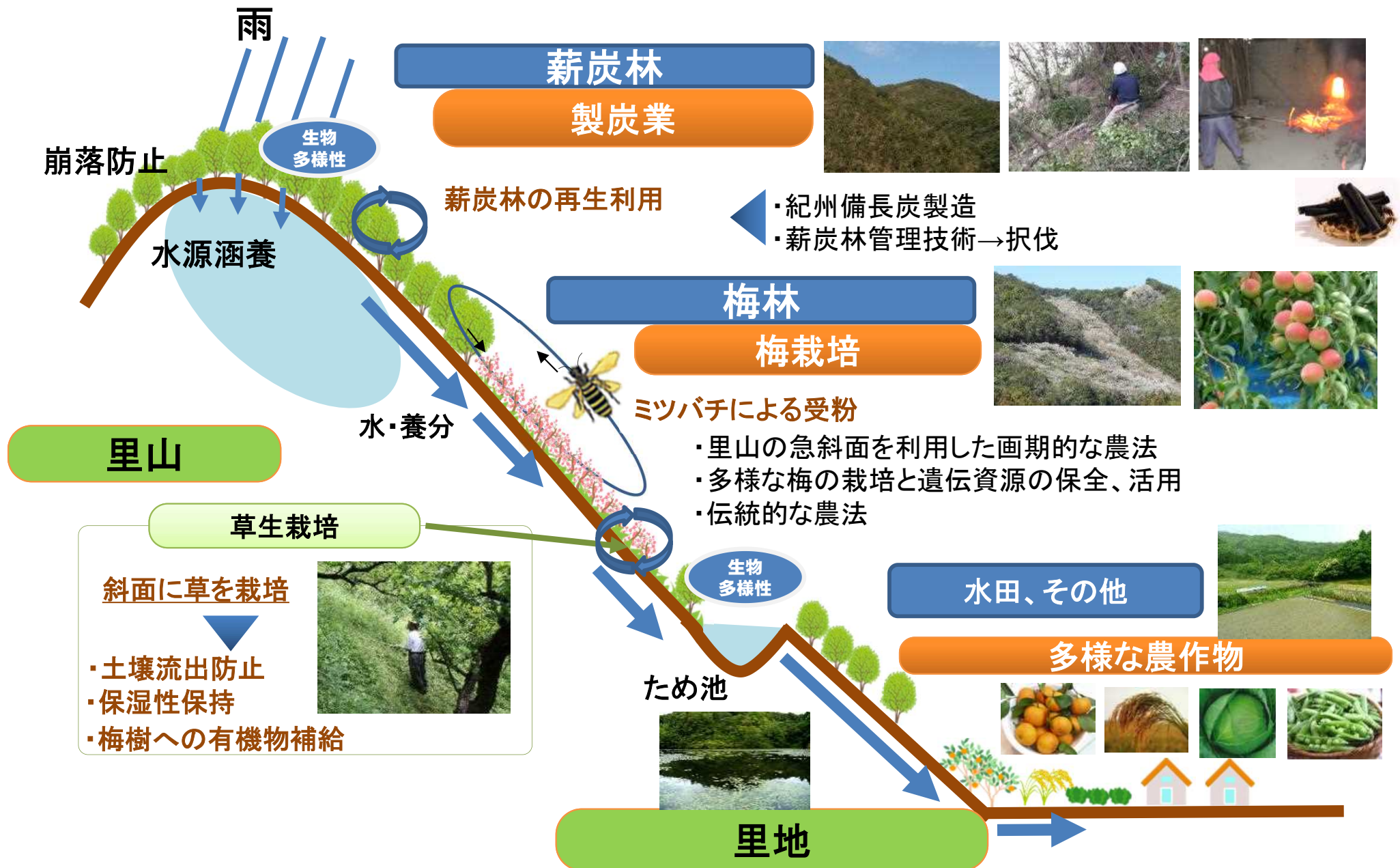
ワーケーション

■ 生態系への影響が懸念される

プラスチック類ごみ問題への対策

世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」

みなべ・田辺の梅システムは「循環」の農業



「みなべ・田辺の梅システム」を発展させる取組

○ 未活用資源の循環活用

- ・ 梅加工時に発生する調味残液を活用したバイオガス発電
- ・ 紀州備長炭の原木確保の際に発生する枝葉等による木質バイオマス発電



梅調味液バイオガス発電所
運転開始 2019年4月
梅調味廃液処理量 20m³/日
年間発電量 200万kWh
(一般家庭400世帯相当)
CO2削減量 1000t/年



木質バイオマス発電所
運転開始 2021年6月
年間使用燃料 7万6千t
年間発電量 4800万kWh
(一般家庭1万3千世帯相当)
CO2削減量 23000t/年

○ 関係人口の増加に向け、農泊や農業体験など新商品の開発・充実



400年継承してきた「梅システム」を
400年先へ、そしてさらにその先へ保全・継承

環境問題の解決に資する和歌山県の様々な取組

■ 循環産業の好例

世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」

■ 東京一極集中の弊害を緩和

ワーケーション

■ 生態系への影響が懸念される

プラスチック類ごみ問題への対策

ワーケーション（背景）

東京一極集中による生活環境の悪化

- コンクリートジャングルがヒートアイランド現象を一層加速
東京は過去100年間で平均気温が約3℃上昇
熱帯夜も過去40年間で約2倍に増加
- 住居が狭い・高いうえ、通勤に時間がかかる

社会情勢の変化

- ICT技術の発展と働き方改革により、自由に場所を変えながら働くニーズが増大



こうしたことを踏まえ、

2017年に和歌山県が全国に先駆けてワーケーション受入れを開始

ワーケーション = ワーク（仕事） + バケーション（休暇）

東京一極集中の解消は容易でないものの、ワーケーションを通じて
弊害を緩和するとともに、環境問題にも好影響

ワーケーション（和歌山県の強み）

①首都圏・京阪神からの便利なアクセス



大阪から白浜町まで電車で約2時間30分／車で約2時間

②災害に強いネットワーク環境

- NICTによる災害時でも途切れないネットワーク「**NerveNet**」を整備
- 人口当たりのWi-Fi整備数 **全国2位！**
- 超高速ブロードバンドの県内整備率 **99.9%**（2019年3月現在）

③ITサテライトオフィスの進出

市町村名	進出数	進出企業
和歌山市	12社	トランスコスモス(株) (株)Link-U ほか
田辺市	5社	(株)ギガプライズ (株)見果てぬ夢 ほか
白浜町	14社	(株)セールスフォース・ドットコム クオリティソフト(株) ほか

（2021年3月末現在）

④世界に誇る観光資源

青い海・綺麗な川
高野山

温泉・宿
パンダ

熊野古道
スポーツ施設



ワーケーション（和歌山県の取組）

○ 東京で「ワーケーションフォーラム」開催（2017年8月）

○ 個別の企業への営業・ヒアリング（2017年度～）

○ 首都圏の企業を対象としたモニターツアーの実施

○ 都市部企業との連携協定

受入ビジネス：三菱地所(株)（2018年8月）

日本能率協会マネジメントセンター（2019年2月）

転職なき移住：富士通(株)（2021年10月）



○ ワークプレイスの整備

・ ITビジネスオフィス「ANCHOR」

・ 秋津野グリーンオフィス

・ 南紀白浜空港公園内の拠点整備 他



南紀白浜空港公園内ビジネス拠点（2022年6月開業予定）

○ コーディネート機能 “Wakayama Workation Networks”

県内でワーケーションの受入ビジネスを行う民間事業者を登録

ワークプレイス、宿泊施設、アクティビティを包括して支援

3年間（2017年度～2019年度）で **100社** を超える企業がワーケーションを実施

ワーケーション（実施効果）

民間企業による実証実験
和歌山県でのワーケーションと東京での在宅リモートワークを比較検証

業務生産性や心身の健康にポジティブな効果あり

- ① 職業性ストレスの低減
- ② 良質なパフォーマンスを発揮するための回復機会の向上
- ③ 仕事に対する活力・熱意・没頭の程度の向上
- ④ 仕事のパフォーマンスの向上

(株)南紀白浜エアポートの公表資料（2021年6月）より

社会貢献活動や健康増進に寄与するアクティビティと組み合わせて
都市との循環をさら促進、環境問題にも寄与

○ 熊野古道ウォーク&道普請



○ サイクリング（サイクルトレイン）



ワーケーション（受入環境の更なる充実）

○ IoTおもてなし実証「白浜まるごと顔認証」



スマホ等で「顔」とクレジットカード情報を登録。空港やホテルで**特別なおもてなし**を受けたり、食事やショッピングの際に**顔認証による決済**が可能に。

○ 3密可視化システム



各種センサーを使って施設空間の3密状態を可視化。南紀白浜空港で試験運用し、実用化。

地元企業と進出企業による新しいテクノロジーで
利便性や効率性をさらに向上

環境問題の解決に資する和歌山県の様々な取組

- 循環産業の好例

世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」

- 東京一極集中の弊害を緩和

ワーケーション

- 生態系への影響が懸念される

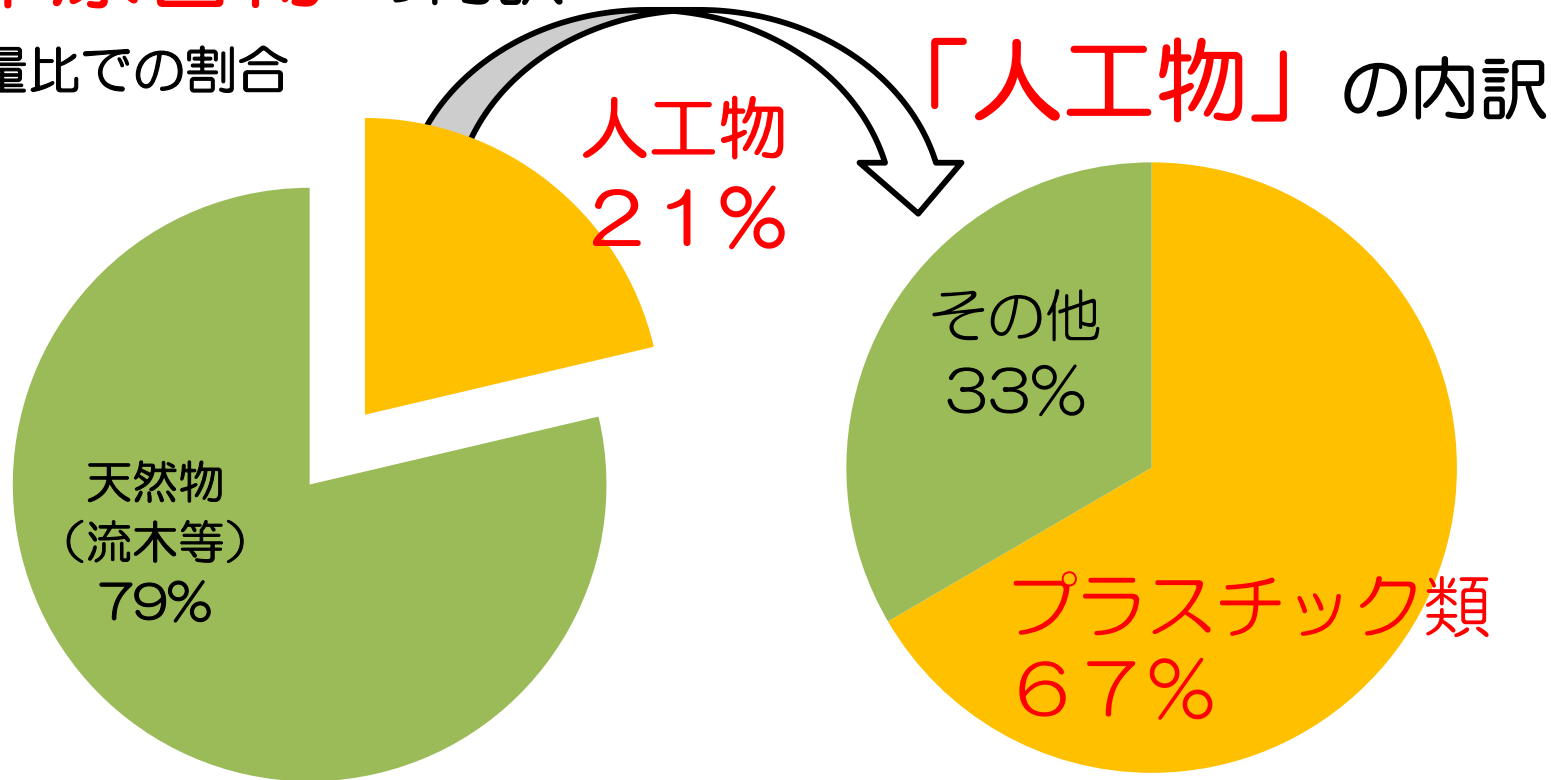
プラスチック類ごみ問題への対策

プラスチック類のごみ問題の現状

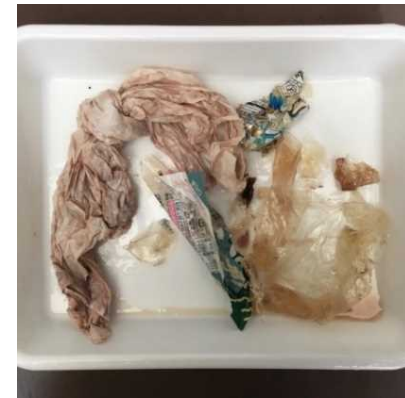
串本町 上浦海岸（2016年度 環境省調査）

海岸漂着物の内訳

重量比での割合



死亡漂着したウミガメ



腸の中からは、
誤飲と思われる
プラスチックごみ

なかなか分解されないプラスチックごみは、
海洋生物の生存を脅かす大きな問題

プラスチック類のごみ問題の解決に向けて

解決策① プラごみの発生抑制とリサイクル

プラ類の使用を減らし、リサイクル（再資源化）を進める
レジ袋有料化だけでは、問題はなかなか解決しない

※生鮮品用のプラスチックトレイやラップなどリサイクルできないものがある

解決策② 適正な分別回収とサーマルリサイクル

分別後の見通しが重要、見通しのない過剰な分別は無意味
プラ類ごみも焼却できる炉を増やし、焼却熱をエネルギー回収

和歌山市では2016年4月からプラスチック製容器包装を「一般ごみ」として回収

- ・焼却補助燃料である灯油使用量が約20%減少

2015年度:482リットル/日 → 2016年度:377リットル/日

- ・1年間で約230万kWh(約700世帯分)を発電

火力発電における原油約550キロリットルの節約に相当

解決策③ 徹底した取締り

河川や海洋にごみを流出させないよう、ごみの散乱行為に対して
命令や過料を定めた条例を制定

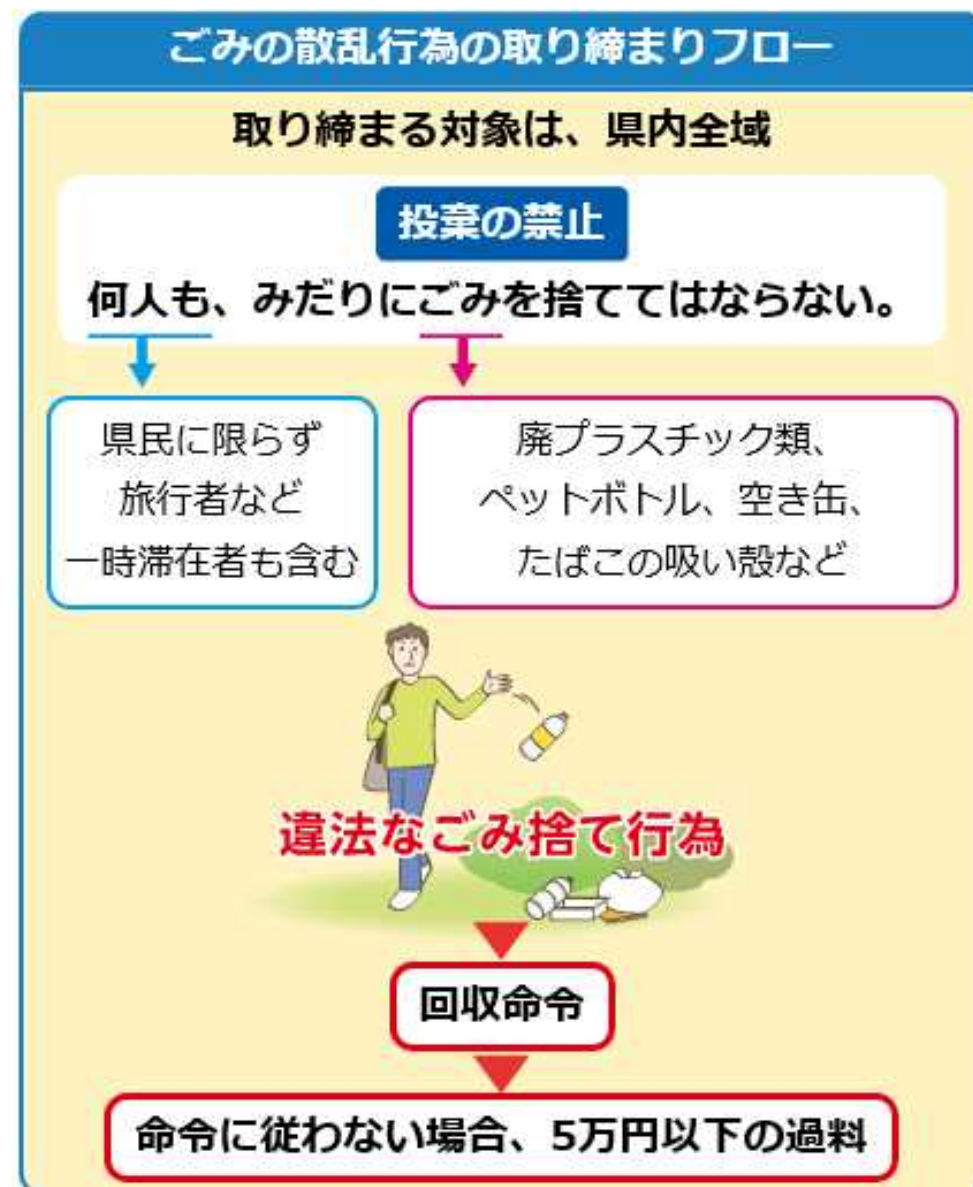
和歌山県ごみの散乱防止に関する条例

県土全体の広域的な環境の保全、また将来にわたり県民にとって健康で文化的な生活を構築していくため、条例を制定

(半年間の周知期間を経て、2020年10月1日から全面施行)

特徴

- ・ 命令等知事の強力な権限を委任された**環境監視員**を県内全域に配置し、県内を**パトロール**
- ・ 環境監視員は、ごみの散乱行為を発見した場合、**回収命令**を発出
- ・ 命令に従わなかった場合、**過料（5万円以下）**徴収



和歌山県は

世界に誇る地域資源を保全・活用しながら

国内外の方々との交流をさらに深め、

環境問題の解決を念頭に置いて

持続可能な地域を築いていきます。



きいちゃん
和歌山県PRキャラクター